

建設防災 ボランティアニュース 第63号

目次	・ 初動対応訓練
	・ 砂防講習会
	・ 建設局長による感謝の会
	・ 北南建所内研修会
	・ ミニツアー通信

建設局初動対応訓練

2月8日(水)午前7時から12時まで、「建設局職員の災害発生時における対応能力向上を図る」、「震災対策の手引きの改定内容を踏まえて実施する」を目的として建設局初動対応訓練が実施され、局からの協力依頼に基づき、各班から合計76名の会員が訓練に参加しました。

事務所	参加者	事務所	参加者
一建班	4名	西建班	7(2)名
二建班	6名	南東建班	7(4)名
三建班	8(3)名	南西建班	6(2)名
四建班	10(1)名	北南建班	6名
五建班	3名	北北建班	4名
六建班	7名	東部公園班	5(2)名
		西部公園班	3名
合計	76(14)名		

()内：参集訓練参加者内書

今年度は、「訓練内容の簡素化」、「事務局の事前準備を最小限にし、実践的な訓練にする」を訓練のポイントとしていたため、多少のトラブルはあったものの、より臨場感のある訓練となりました。

具体的には、「安否確認訓練」、「職員参集訓練」、「本部開設訓練」、「情報連絡訓練」、「点検出動訓練」、「交代要員引継ぎ訓練」、「支援班訓練」が行われ、各会員は事務所の指示に基づき様々な部署で活動しました。

多少寒くはありましたが天候に恵まれ、より実践的な訓練を経験できました。事務所との調整、会

員への連絡などに御尽力いただいた各班のリーダー、訓練に参加された協会員、そしてなによりご指導頂いた事務所の皆様に感謝いたします。

担当理事 久保田元久

事務所班からの報告

西建班

西建班からは4km圏内2名、4km圏外5名の計7名が参加した。

午前7時に大規模地震が発生したとの想定のもと、7時30分に自宅を出発。西建に7時51分着。すでに本部は開設されており、続々と職員が参集し班編成にかかる。9時現在の参集人員は23名(ボランティア2名)。道路啓開協力業者等から入る情報を整理し、被害状況を本部に報告。



情報を整理する谷村会員と河合会員

一次緊急輸送道路となっている国道411号線の道路陥没箇所・土砂崩落箇所へ、本部からの出動指示により、応急対策班が直ちに点検に向かう。現場に到着した応急対策班からの防災無線、レスナビによる道路被害状況報告を受け、情報を整理し局本部へ報告する。

10時15分からは、4km超圏から参集した交代

要員と各班それぞれ業務の引き継ぎを行い、訓練を継続する。10時15分現在の参集人員は30名(ボランティア5名)。



参集状況及び被害状況を集計整理する高橋会員

新たに入った河川被害状況の連絡を受け、本部並びに局本部へ報告し、応急対策班への出動指示を行う。現場からの無線連絡は、場所によっては雑音が入るなど感度が悪いとの問題も報告された。



行政防災無線による連絡を行う田中、稗田、佐藤会員



出動指示を受け点検箇所の確認を行う山縣会員

寒い時期の訓練であったため、インフルエンザで欠席となった職員も多く、ボランティア会員では清水、橋本の2名も止むなく欠席となった。

西倉局長の講評のとおり、日頃からの訓練を通して災害対応力の向上を図ることが重要との認識を改めて感じた。訓練終了後、石坂所長とともに所長室でアルファ化米を試食し散会した。

西建班 谷村秀樹

南東建班

南東建配属の防災ボランティア(原田、丸岡、杉本、矢内、若尾、佐々木、柴田敬称略。)7名が所の初動対応訓練に参加しました。

早出組は午前8時30分までに、後発組は10時15分までには全員が参集し、各々の業務訓練を行いました。まず、早出組では、総務、道路、河川、応急対策班に各1名が配属され、現役職員と共に所定の業務につきました。各班ともカメラ、携帯電話、パソコン、事務用品等を収納場所から取り出し、体制準備を完了させましたが、今年は事務局による事前準備を最小限としたため、多少セッティングまでに時間を要しました。



9時に被害1が、9時25分には被害2と被害3が、10時には被害4について、作戦班より道路班と河川班に

各々報告があり、各班のリーダーから応急対策班あて、現地出動の指示が出されました。

応急対策班からは随時、現地状況や対応状況等について、所の各班あてに状況報告があり、その報告は、所の総務班及び本部長に報告すると共に、さらに局本部あて FAX による被害状況等報告を行いました。その後、10時15分には、担当班ごとに、後発組との引き継ぎを行いました。

後発組の道路班リーダーは直ちにメンバー全員を集め、①自己紹介②各員の作業分担の確認③現在の被害状況と対応状況等について説明を行い、各自がテキパキと任務遂行を進めていました。

10時30分に被害5と被害6が、作戦班より道路、河川の両班にあり、応急対策班は現地に向かいました。次いで10時45分に被害7が作戦班から道路班にあり、応急対策班が現地に向かいました。11時には現地からの報告が入り、必要な指示を協力業者に行うなど、所定の訓練が続きました。特に現地からの報告を受け、道路班リーダー

は優先度 A、B、C についても判断し、所の総務、本部長に報告するとともに、局本部にも FAX による報告を行うなど、予定の訓練を進めました。

11 時 30 分頃、鹿田所長から本庁本部に被害状況と対応状況等について報告し、その後 11 時 35 分頃から、局本部長である西倉局長から、挨拶・講評がありました。次いで、所長から局長講評等を踏まえた挨拶があり、最終的には局からの訓練終了の MCA 無線を受けた後、所長による最終の講評があり、本日予定の訓練が無事終了となりました。



鹿田所長、齊藤副所長と参加した協会員

訓練終了後に、参加された防災ボランティアと所の管理職の方々と一緒に記念撮影し、帰りに非常食訓練で炊きだしたアルファ米弁当をいただき、帰路につきました。

途中、参加メンバー有志により昼食懇親会を某所にて行い、気分も良好にボランティア活動の締めを行いました。参加された皆様、大変お疲れ様でした。

南東建班 柴田賢次

南西建班



片岡所長、原田副所長と参加した協会員

北北建班



藤木所長、石内副所長と参加した協会員

北南建班

本年度は、柿塚顧問、池田リーダー、川合、内山、舛原、新川の 6 名が参加した。

訓練は、例年通り午前 7 時に、想定された地震発生の後、安否確認訓練から職員参集訓練、本部開設訓練などを実施する計画となっていた。防災ボランティア会員は、10 時以降に参集し、参集訓練参加者との引継ぎから訓練終了まで、被災箇所の点検や情報連絡などの訓練に従事した。



北南建では、昨年まで本部を仮設のプレハブ庁舎に開設していたが、耐震補強工事も完了したこと

から、今回は本庁舎での訓練となった。本庁舎では通常業務をしており、広い会議室が取れないことから、狭い会議室での訓練となり、作戦班、支援班、応急対策班の 50 名強が活動している防災本部は、座ることもできないような臨場感のある訓練となった。

応急対策班は、都建協の協力会社の社員の参加もあり、入れ替わり立ち替わりで現場確認に行っていた。

例年防災ボランティア会員は、後半の引継ぎ訓練も含めて早い時期に集合していたが、今回は

到着後すぐに、本部長からの依頼を受けて訓練に参加するという形態となった。このため時間に余裕が無く、会員の集合写真を撮る時間も無く、すぐに訓練に参加することとなった。

本部が狭いことから、被災場所を示す管内図の掲示ができないなどの状況もあったが、これも訓練として今後の良い教訓となると思われる。

後半は、本部長の斎藤所長と副本部長の寺内副所長が指揮命令を実施することになった。想定にない報告要請などに「バタバタ」する面もあったが、臨場感がある訓練となった。

私たちは、作戦班総務、作戦班道路、作戦班河川と分かれて訓練に従事したが、後半は応急対策班が現場に出てしまい、本部に残る職員がなくなったこともあり、各班から人員を補充することなどによる対応をするなど、訓練としても臨機応変の対応ができたと思っている。

北南建班 新川 彰

東部公園班

東部公園班は、鈴木進、小林和雄、佐藤清美、角田勲、上杉俊和の5名が、応急対策班担当で参加しました。

鈴木、佐藤の2名は7時30分からの参集訓練から参加し、8時30分頃上野公園内に設定された「被害想定箇所」の点検を行いました。また小林、角田、上杉の3名は、10時15分からの訓練に参加しました。

2回目は10時15分過ぎに、上野公園内4ヶ所に設定された「被害想定箇所」の内、③の不忍池弁天門付近の「大木が倒れ、園路をふさいでいる」箇所に、鈴木、角田が徒歩で向かい、状況把握、対策等の点検を行い、現場状況写真、状況対応等を携帯電話で事務所本部に報告を行いました。また、「被害想定箇所」の内、④の不忍池中通りの「護岸の一部が崩れ、通行できない状況にある」箇所に、都職員、佐藤、小林で自転車により現場に向かい状況把握、対策等の点検を行い、現場状況写真、状況対応策等を無線機により事務所本部に報告を行いました。

11時00分頃事務所に戻り、11時10分過ぎに応急対策班リーダーが本部長に状況報告を行いました。



細岡所長と参加した協会員

11時30分過ぎに細岡本部長より、公園は365日24時間の現場であり、訓練を積むことが大切である等の講評があり終了しました。その後支援班訓練の非常食の試食をして、初動対応訓練を終了しました。

東部公園班 小林和雄

西部公園班



現場点検する協会員

一建班



新谷所長、奥山課長と参加した協会員

二建班



砂田所長と参加した協会員

三建班



佐野副所長、宮崎課長、山崎課長と参加した協会員

四建班



湯川所長、植村副所長と参加した協会員

五建班



小林所長、春田副所長と参加した協会員

六建班



松浦所長と参加した協会員

砂防講習会を開催しました

昨年は、4月に熊本でマグニチュード6.5の本震と思われた地震の二日後に、マグニチュード7.3の本震が発生し甚大な被害が発生しました。

また、6月迄は台風の発生がゼロでしたが、7月に第1号が発生すると、その後は続けざまに発生し、迷走した台風や、初めて東北の太平洋岸に上

陸する台風など、河川の氾濫や土砂災害が発生し、これまでの経験では想像できない事態も発生しました。

我々、防災ボランティア協会員一人ひとりも、このような最新の知見を踏まえた行動が大切になるだろうと痛感しています。

28年も押しつまった12月26日、道路整備保全公社の会議室をお借りし、砂防講習会が開催され、協会員39名が参加しました。

杉浦理事長の挨拶のあと、年末のお忙しい時期にも係わらず、東野寛河川部長からご挨拶いただき、吉原信貴防災課長から「砂防関係事業予算について」と題して、事業の進捗など説明をいただきました。



その後、島田修防災課課長代理(砂防担当)から「大島における土砂災害対策」、羽原巧治計画課統括課長代理(計画調査担当)から「総合的な土砂災害対策について」、そして最後に、亀岡喜史防災課(防災担当)から「気象情報・土砂災害警戒情報の活用について」ご講演をいただきました。



熱心に聴講する協会員

土砂災害被害の軽減に向け、土砂災害危険区域の指定などが着実に進められていること、4年前の10月に、台風26号により36名の死者と、いまだに行方不明者がいる伊豆大島での土砂災害の復旧状況、さらに気象情報の活用などについて、丁寧にご説明をいただきました。

また、ご講演頂いた後には、防災ボランティアのメンバーとの意見交換も行われ、東野部長も最後までご出席いただき、大変有意義な講習会となりました。



質問に回答する河川部の方々

日頃の河川部で活躍されている現役の皆様には頭が下がります。

私ども防災ボランティアのメンバーも、土砂災害被害軽減のため、日頃から、意識改革に努め、いざという時の活動の準備をしなければと痛感した次第です。

二建班 廣木良司

建設局長による感謝の会

今年も、建設局長より、建設ボランティア協会員の日頃の積極的な活動に対して感謝の会のお誘いをいただきました。1月27日(金)6時15分から、第一本庁舎32階「西洋フード」にて、建設局幹部の方々26名、協会員67名が参加し、盛大に開催されました。

司会を勤められた荒井総務課長は「建設局とボランティア協会の結束が更に高まり、そして何よりもこの会が楽しいものになるよう努めます。」と好調な滑り出しです。



西倉局長は「ボランティア協会員との様々な活動を通し、多くの場面でお世話になり、建設局の組織結束力の強さを改めて感じている。最近では事業の一部が止まることもあったが、幸いに予算案等を見ても

建設局の事業を進める環境は整いつつある。インフラ整備は先輩から連綿と『バトン』を受け継いできたものであり、ここで落とすわけにはいかない。本日の会を通してご指導いただき懇親を深めたい。」との心暖まる御挨拶を頂きました。

杉浦会長は「協会は今月6月で設立20周年を迎え、活発に活動しているが会員の高齢化を懸念している。建設局と協会との良い伝統を受け継いでいくために、局退職者に入会を勧めるとともに、幹部ご自身もその折はご参加いただきたい。東京大改革ということで苦勞されていると思うが、自然災害は時を選ばず準備を怠ってはならない。今日は現役の皆さんとの懇談でモチベーションを維持し、協会活動の糧としたい。」と挨拶しました。



中野次長は「建設局との付き合いは短いですが、機関紙で協会の多彩な活動を理解した。改めて感謝します。」とのご挨拶とともに、大きく乾杯の音頭を取られ、懇親が始まりました。

恒例の差入れは、協会からは、地元でしか手に入らないあきる野市の「喜正吟醸舟搾り」、建設局から国際ワインチャレンジ2016酒部門銀メダルの「瀬祭純米大吟醸磨き2割3分」、協会の窓口総務課木崎さんの地元飯能の「天覧山特別限定大吟醸洗心無」と豪華な銘柄がそろいました。



これらのお酒に乗せられて懇親会は大いに盛り上がり、旧交を温め、笑い語り、杯を酌み交わす和やかな光景が会場に溢れんばかりでした。

しかし時間には限りがあります。三浦道路監の「建設局

の事業は長い時間をかけて丁寧に進める仕事であり、先輩の皆さん方の努力を引き継いで事業に邁進していきたい。これからも頑張ります。お手を拝借！ イヨー！！ ポン！！！」で、楽しい懇親会もお開きとなりました。

担当理事 林 幹生

「きたなん塾」開催

平成29年1月19日、「第7回きたなん塾」に参加させていただいた。この「きたなん塾」は今年から局研修の一環として実施され、防災ボランティア会員7名が参加した。

都OBによる「きたなん塾」の前身は、加藤昌宏会員が北南建所長時代に、調布保谷線の計画幅員を36mとした時の経過などについて、当時の計画課長だった梶山修さん、横山昌隆さん、私の3名で、職員への研修を行ったのが最初である。調布保谷線の計画の基本的な考え方や、JR中央線三鷹～立川間の連続立体交差事業に関連した、当時の建設省との調整などについて職員の皆さんに聞いてもらった。現在は局研修にまで位置づけられて、感慨深いものがある。



北南建の塾参加者と管理職そして協会員

今回の研修は「橋梁・トンネルなどの維持管理について」と題して、元保全担当部長の川合会員に講演していただいた。私の不手際で当初予定していたパワーポイントが使えず、北南建の御配慮でコピーを作成していただき事なきを得た。

講演終了後、講演に関する質疑と、事前提出さ

れた質問に答える形での「体験談」を交えた回答が続き、15時から18時までと時間が少ないなか、中身の濃い研修となった。

事前質問は、「土木技術」「行政・都政運営」「住民対応」「都知事」など、25項目に渡る内容であった。柿塚顧問には事前に丁寧な回答文を作ってください、また出席した他の防災ボランティア会員が「一番印象に残った知事は？」という質問に回答するなど、私自身も興味深いものがあった。

「塾生」は、入都暦1～3年の職員だが、非常に問題意識が高く、私の入都時よりも期待できる人材であると思って見ていた。新人研修であったが、斎藤所長、寺内副所長、増田補修課長、黒木工事第一課長など多くの管理職の皆さんも参加されていた。

建設局のOBとして、なかなか現職の方々と話す機会がないなかで、「きたなん塾」に呼んでいただいたことに感謝の念でいっぱいでした。

北南建班 新川 彰

ミニツアー通信

去る2月16日のミニツアーに、一昨年8月に参加され、57号に寄稿していただいた山本将大君が、進学した東京学芸大学附属高等学校の同級生3人と再訪してくれました。山本君から「共に見学した仲間からも、橋の持つ技術や規模に対して、驚きと感動の声が聞けました。皆楽しく見学できたようでした。」とのメールもいただきました。



アンケートを書き終えて

初めて参加された皆さんの感想です。

田上雄悟君・・「橋が上がるのが、実際に見てみるまで想像できませんでした。」

奥山暢公君・・「あんな大きな橋を手動で持ち上げられると知り、とても驚きました。」

谷川敦哉君・・「グリースを除き全て国産の橋であると聞き、かつての日本の技術力に驚きました。」
ありがとうございました。

担当理事 林幹生

協会からのお知らせ

- ① 各班の活動報告をお待ちしています。下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ② 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

今年度も最終号となりました。1年間で延べ20名を超える会員に記事を書いていただきました。無理をお願いした方から、何回も書いていただいた方までありがとうございました。心より御礼申し上げます。

来年度もよろしく願いいたします。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

